



# 碧南ロータリークラブ週報

第2568回例会 平成23年10月26日(水)

● 会長 石川 春久 ● 幹事 平岩 辰之 ● 会場監督 (SAA) 新美 惣英

2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール  
 ■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100  
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>  
 E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)  
 ■ 会報委員 鈴木健三・菅原 優・永坂誠司・鈴木宏枝



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

## ● 齊 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

## ● 本日のメニュー

季節のお弁当 とんがり帽子

## ● 本日のお客様

清澤満之記念館 事務局員 酒井笑子氏



石川春久会長

## 会 長 挨拶

今日は完結編をお話しします。

私が何故ここまで野球を好きになったかは高校時代の影響だと思います。チームは私が2年生の時の山中先輩を中心にしたチームの時が一番強かったと思います。残念なのは私が一番可愛がってもらった方、一番可愛がった方のお二人が亡くなっていることです。反面、仲間のおかげでプロ野球はお金を出して見たことがありません。思い出と言えば、名誉会員の平岩慶一先輩にNHKで中継された番組に私が映っていたことを指摘されたことです。

### —引退への導師は近藤貞雄監督—

1981年(昭和56年)、近藤監督が誕生する。与那嶺監督で20年ぶりの優勝を決めてから12年、優勝メンバーで残っていたのは星野仙一、三沢淳、タカマサ、そして私ぐらいだった。ベテランはいつかは戦線を去っていく。近藤監督は私たちの去り際を推し測っていたとしてもそれは当然のことだ。1982年6月30日ナゴヤ球場での対巨人戦。4対2で中日がリードし、9回の表を迎える。マウンドにいるのはこれまで対巨人戦35勝の星野仙一。1死1塁となり打席には淡口憲治。星野にとっては最も相性が悪く、通算では3割3分以上打たれている相手だ。長嶋さんや王さんよりも打たれている。そんな苦手意識が頭をかすめたのか、カウント2-2の後の5球目、外角低めを狙った速球が真中へ行ってしまう。打球は右翼席に飛び込む2点塁打。121球の好投を、一瞬のうちにファイにしてしまったのだ。星野は、牛島和彦に後を譲り降板する。

無念の思いいっぱいの星野を、近藤監督の言葉が直撃する。実は近藤監督、言葉は柔らかく、遠回しな言い方ながら厳しいことを平然と言う。この時もそうだった。要は「星野はもう先発要員ではない。リリーフに回れ。」ということだ。これは、過去14年間先発、完投を生き甲斐にしてきた「燃える男 星野」にとっては、これまでの自分が全て否定された思いだったに違いない。しかも「たった1球で」だ。憤懣やるかたない星野の思いが、私にもびりびりと伝わってきた。先発を外されたうえ、リリーフは牛島の指定席とあってはもう星野の出る幕はない。星野もこの年

を最後に現役を引退する。

星野が"魔の1球"のために近藤監督から引導を渡される5週間前、私も星野と同じ思いを味わっていた。1982年5月23日、仙台宮城球場だの大洋戦。9対6でリードしたまま迎えた9回裏、リリーフに出たタカマサが長崎慶一に満塁本塁打を打たれ逆転サヨナラ負け。リードに問題ありと断罪され、翌日、私は近藤監督から、新人中尾孝義にマスクを譲り、代打に専念するよう告げられる。結局その年、私も19年間着なれたユニフォームを脱ぐこととなる。ただこの時、リリーフでは使えないと宣告されたタカマサは、先発に回り見事復活する。1球に泣く者がいれば、1球を次への転機とする者もいる。まさに人生いろいろである。反省の分だけ一生懸命本を売っております。ありがとうございます。

## 幹事報告

- 例会変更等は幹事報告書の通りです。
- 本日の例会がクールビズ最終日です。
- 10月12日「第1回次年度役員指名委員会」が開催されました。  
加藤良邦さんが満場一致で指名委員長に決まりました。
- 次週、11月2日、11時30分より「第2回次年度役員指名委員会」、例会終了後、第5回理事会を開催いたします。



平岩辰之幹事

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数71名(内出席免除者14名の内出席者8名)出席者57名	
出席対象者 57/64名	出席率 89.06%
欠席者14名(病欠者1名)	前々回修正出席率 98.48%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

### 〈ニコボックス委員会〉

- 山中 寛三君 先週は会長より本を頂き、有難うございました。
- 加藤丈太郎君 11月19～26日、文化会館1階ホールにて山中寛三先生、神谷研先生お二人の水彩画と写真展を開かれます。是非ご高覧下さい。
- 石川 春久君 } 職場例会、西方寺さんに大変お世話になりました。合掌
- 平岩 辰之君 }
- 犬塚 敦統君 3週間お休みし申し訳ありませんでした。無事手術も終わり、10月20日に退院させて頂きました。
- 倉内 裕君 職場例会には、たくさんのご参加ありがとうございました。
- 奥田 雪雄君 先週、孫の運動会がありました。よくできた子で、みんなを先にゆずって8人中8番目にゴールしました。楽しかったと言っておりました。
- 清澤 聡之君 先週は職場例会にて西方寺へお越し頂きまして、ありがとうございました。  
先週は、石川春久会長には特別にご配慮頂きました。多くの会員の方々に「弥陀の松」で製作致しました、お念珠に出遇っていただき、感謝致しております。  
ありがとうございました。  
本日の講師、酒井笑子さんをご紹介致します。
- 竹中 誠君 2週間連続例会欠席でしたが、楽しい事がたくさんありました。
- 山中 寛紀君 ほんの少し良い事がありました。

## 卓 話

「清澤満之に学ぶ」 清澤満之記念館 事務局員 酒井笑子氏

—満之の略歴—

- 1863年 名古屋黒門町に生まれる。幼名満之助
- 1888年 京都尋常中学校長となる。  
西方寺の清沢やすと結婚
- 1896年 宗門改革運動を起し「教界時言」発刊
- 1902年 学長を辞し大浜に帰る
- 1903年 6月6日西方寺に没す、満39歳



—人類の教師 清澤満之—

近代日本における、すぐれた仏教者清澤満之は建峰、骸骨、石水、ろう扇、浜風と号を変え、常に新たに自己と真実を問い続け、ここ西方寺に短い生涯を終えた。東京大学で西洋哲学を学び、仏教の近代化に努めた満之は宗門の人材養成を通して、人間教育の革新に命をかけた。親鸞の歎異抄を深く味わい、釈迦の阿含経、ソクラテスの流れをくむエピクタテス語録等を究明して絶対他力の精神主義を提唱した。

浩々洞の人々によって受け継がれた満之の信念は今も混迷する世のともしびとなっている。



次回例会案内 平成23年11月9日（水）

卓話「歴史教科書問題について」

会員 亀山裕一君